

# 同友しずおか12

2025

「入ってよかった」「続けてよかった」「誘ってよかった」  
「企業も地域もよくなった！」

VOL.565

私の逸品

(株)Agrist

農業を通じて地域を楽しく



静岡県中小企業家同友会





## 中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

### 同友会3つの目的

#### 1 よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

#### 2 よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

#### 3 よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

- 社長はいつも孤独
- 経営の成功体験しか聞けない
- 目の前の仕事に追われる毎日
- 指示待ち社員ばかり
- 経営の悩みを相談する仲間ができた
- 失敗談から勇気とヒントをもらえた
- 将来の会社のビジョンができた
- 自発的な社員が増えた

その答え、  
**同友会にありました。**

会 員 募 集 中

経営者同士だからこそ話せる  
悩み、解決へのヒント、将来への展望。  
体験してみませんか？

静岡県中小企業家同友会 TEL/054-253-6130  
〒420-0857 静岡市東区藤原町 静岡工業ビル4F FAX/054-255-7120 Email/doyu@sdoyu.jp

## ◆静岡同友会 2025年ビジョン 「企業づくり・地域づくり・同友会づくり」

### ◆ 企業づくり ◆

私たちは、関わる全ての人が「成長」と「幸せ」を実感できる企業をつくります

### ◆ 地域づくり ◆

私たちは、中小企業と地域が手を取りあい、人々の幸せが見える地域をつくります

### ◆ 同友会づくり ◆

私たちは、企業と地域を守る経営者の<sup>きょうじ</sup>矜持と努力を結集し、  
学び・気づき・ワクワク溢れる活動を通して県下1500名会員を実現します

### 新会員のご紹介 (敬称略) 会員数 1076名

氏名	社名・事業	所属支部
まるおか たかし 丸岡 貴司	東海電子(株) 業務用アルコール検知器システムの企画、開発、製造、販売、保守、その他、電子機器の製品設計、製造	沼津
うえだ えりな 植田 恵梨奈	(株)フジエイト 土地の造成、販売	富士宮
うえまつ まさき 植松 正樹	dimanche matin 洋菓子製造・販売	富士宮
かげやま ゆか 影山 裕香	アーネスト FUJI (株) 不動産売買	富士宮
かとう ゆうや 加藤 祐也	加藤塗装 塗装、コーキング、防水	富士宮
こばやし ようじ 小林 陽司	(有)興坪測量設計事務所 測量、設計	富士宮
さの ひろあき 佐野 弘明	ふじみ企業(有) 宿泊業、Tabist ゆ縁の宿ふじみの運営	富士宮
むらまつ みやこ 村松 美也子	クローバー不動産 不動産仲介業、管理業、賃貸業	富士宮
まつもと やすみ 松本 保美	(株)M & T ラーニング インターネット、AI を使った研修マッチング事業	静岡
すずき やすし 鈴木 靖	遠州信用金庫 金融業務	浜松

※新会員の写真は e.doyu 「ユーザ名簿」に掲載します。e.doyu からのご確認をお願い致します。

## 農業を通じて地域を楽しく

(株)Agrist (中遠支部)

代表取締役 村田 吉寛氏



「農家喫茶 のこのこ」 外観

## 農業での出会いと創業のきっかけ

20歳で農業の道へ飛び込んだ(株)Agrist代表・村田吉寛氏。浜松・磐田を拠点とし、とうもろこし「甘々娘(かんかんむすめ)」をはじめ、レタス、小松菜、キャベツなど様々な野菜や果物を栽培しています。現在では、約50haもの敷地を有し、事業を拡大させてきた村田氏ですが、創業のきっかけとなったのは、下積み時代にお世話になった社長からの一声でした。10代の頃は、家業の大事を継ぐつもりで修行に励んでいたものの、先輩の誘いを受け、20歳で農業の世界に飛び込みました。知識も経験もない中でも、先輩農家や肥料業者に積極的にアドバイスを乞い、早朝から夜中まで野菜と向き合い、研究と実践を重ねてきました。その姿勢が周囲の同業者からも高く評価され、当時お世話になっていた社長から「自分でやってみろ!」と畑を託されたのが、創業のきっかけです。



人と人が繋がる直売所



とうもろこし「甘々娘」のかき氷

## 「甘々娘」で繋ぐ、消費者との繋がり

同社の看板商品が、甘味が強く、県西部で有名なとうもろこし「甘々娘」です。甘々娘は栽培が難しい上に、収穫時期も5月末から6月末の約1か月と短い中、今シーズンは30万本を出荷しました。甘々娘において特に村田氏が大切にしているのが、お客さまに直接手渡しすることのできる直売です。直売所の店頭に立ち、自ら販売することで、お客様の声や顔を直接感じることができます。それが、村田氏と従業員の喜びややりがいにつながっており、直売こそが村田氏の礎となっています。さらには、お客さんにとっても、従業員にとってもその瞬間が幸せなものとなるよう、すべての商品を村田氏自身が一つひとつ丁寧に最

終チェックし、「良いものだけを届ける」という姿勢を貫いています。

## 農家喫茶「のこのこ」への挑戦

自社の野菜や果物を使ったメニューを提供する「農家喫茶のこのこ」。とうもろこしやブドウを使ったかき氷、さつまいもを使ったイモンブランやブリュレの販売、さらに野菜の無人販売などを行っています。

「楽しく野菜づくりができる環境を整えたい」。その想いを胸に、村田氏は今日も畑に立ち、未来へ続く農業のかたちを模索しています。



村田氏(右)と取材陣

## (株)Agrist

〒438-0805 磐田市池田433-2

TEL: 080-3682-3003

URL: <https://agrist-group.com/about/>

創業 2018年11月

社員数 15名

入会年月 2023年6月

事業内容 野菜生産

取材・記事: 石川 泰吉氏  
(株)豊榮製作所・中遠支部  
取材: 生倉 滋人氏  
(有)大橋商事・中遠支部



## 第39回全県経営フォーラム

# やらまいか！わたしたち中小企業家の戦いがここから始まる!!チャレンジ

11月27日(木) ホテルクラウンパレス浜松 参加者…275名

第39回全県経営フォーラムがホテルクラウンパレス浜松にて開催され、ご来賓をはじめ県内会員、他県会員、オブザーバー総勢275名が参加しました。16年ぶりに浜松で開催した本フォーラム。浜松にゆかりのある徳川家康や「やらまいか」の精神をテーマにし、数々の歴史番組の解説やドラマの時代考証をとめる小和田哲男氏(静岡大学名誉教授)による記念講演やチャレンジ精神にあふれた分科会、懇親会を通して参加者が学びと交流を深めました。



浜松市長  
中野 祐介氏



静岡県知事  
鈴木 康友氏

全体会では冒頭、松葉秀介代表理事、伊藤洋子実行委員長より挨拶。松葉代表理事からは「昨年度50周年を迎えた静岡同友会の飛

躍への第一歩となる本フォーラム。『やらまいか』の精神で、実行委員との準備を通して前向きな気運が生まれました。中小企業家にとって困難な状況ではありますが、ここから未来を切り拓いていきましょう」と挨拶。伊藤実行委員長からは「家康ゆかりのまち浜松での開催と聞いて思い浮かんだキーワードは『挑戦』でした。分科会は初の試みとして実行委員と専門委員会・部会のコラボで企画しました。浜松支部、事務局ふくめ多くの方の協力のもと熱意と行動力できちんとすることができたことに感謝します」と挨拶しました。続いてご臨席いただいた7名のご来賓の紹介後、中野祐介浜松市長、浜松磐田信用金庫高柳裕久理事長からご祝辞をいただきました。中野市長からは、「産業構造の大きな変革期、『やらまいか』精神で皆さんのチャレンジ精神を起爆剤に地域経済の未来を切り拓いてほしい」とメッセージがあり、高柳理事長からは「変化の激しいVUCAの時代、価値観の変化は新たなビジネスへのヒントにつ

ながります。当庫もチャレンジする地域企業のパートナーとしてサポートしてまいります」と伝えました。

分科会では人材育成や組織力強化、事業承継など5つのテーマで設営。専門委員会・部会とのコラボで新たな挑戦にむけた企業づくりを学び合いました。

分科会後の懇親会では、鈴木康友静岡県知事と遠州信用金庫鈴木靖理事長よりご祝辞をいただき、山本義彦・静岡同友会顧問(静岡大学名誉教授)より乾杯挨拶がありました。鈴木知事からは「私が生まれ育ち、市長を経験した浜松市は、家康が若い時の17年間を過ごした出所のまち。現在、厳しい経済状況下ではありますが『やらまいか精神』で変革のチャンスに変えていただきたい」と挨拶、鈴木理事長からは「記念講演では『人の長所をとれ』という言葉が深く印象に残った。当庫では中小企業の発展を支援していくとビジョンを掲げている。ぜひ活用してほしい」と挨拶しました。実行委員の登壇に加え、専門委員

### ご臨席いただいたご来賓の皆様(順不同)

お名前	会社・団体名
鈴木 康友様	静岡県知事
中野 祐介様	浜松市長
國分 一行様	厚生労働省静岡労働局長
小田川浩二様	財務省東海財務局静岡財務事務所長
高柳 裕久様	浜松磐田信用金庫 理事長
鈴木 靖様	遠州信用金庫 理事長
山本 義彦様	静岡大学名誉教授・静岡同友会顧問

会・部会のPRタイムもあり、静岡同友会の多彩な委員会活動の魅力が伝わる懇親会となりました。最後に2026年7月9日(木)～10日(金)に静岡で開催される第58回中同協定時総会について、梶川・宇佐美実行委員長から告知がありました。15年ぶりとなる全国大会開催に向けた意気込みが語られ、会場は熱気に包まれたまま閉会となりました。

※記念講演の内容については1月号に掲載予定です。



## 分科会参加者感想

### 第2分科会

「厳しい市場を生き抜く人材育成と企業生存戦略」

事業承継に際して「これ以上は語れないが」という言葉の背景にあった壮絶な苦勞を感じ取ることができた。それでも、時代ごとに、どんな状況下であっても同社を支えたのは「人材」だった。限られた設備投資の中でも常に最大のパフォーマンスを発揮した工場長や、社員の和を取り持った女性社員、あらゆるエピソードに誇りと人情が溢れている。リーマン・ショックのピンチを乗り越えた、他社には追従できない技術をはじめとして、「無くてはならない会社」としてさらに前進している同社。「理念が大事」と改めて原点を忘れない姿勢に、自社も、理念に基づき、人を大切に、チャレンジし続ける経営をしているだろう



第2分科会グループ討論の様子

か、と改めて振り返るきっかけとなった。そして、田中座長による「社員の一所懸命を、しっかりとみる」というメッセージを持ち帰り、まず、みて行こうと思う。

田邊元裕氏（株）カボス／富士宮支部

### 第3分科会

「激動の時代にも成長し続ける企業を目指して、我が社の「増強」を考える」

強い組織づくりの核は、経営者自身が「自分は何者で、何を大切にしているのか」という自己理解を深め、その価値観を土台として自社の明確なビジョンを描き、社員一人ひとりの行動につながる言葉で、粘り強く発信し続けることにあると再確認した。さらに、その核を軸として、マニュアルや人事制度、育成方針、研修、情報共有の仕組みなどを一貫性をもって整える組織づくりの重要性が報告された。また、従業員に意識改革を求めるだけでなく、経営者自ら



第3分科会の様子

が成果に結び付く環境整備や必要なリソースの提供、承認の場の創出、長所を伸ばす教育が行き届く体制を構築する責務についても議論が深まった。日頃から人材育成や組織づくりに悩む多くの経営者にとって、こうした学びは、不確実性の高い時代においてもレジリエンスに富んだ組織づくりへと踏み出す貴重な契機となったと感じている。

青柳宏氏（あおいそら）／志太支部

### 第5分科会

「会社を継ぐとは人生を継ぐこと」中小企業の歴史のレビュー」

「会社を継ぐことは、人生を継ぐこと」をテーマに、パネルディスカッション形式で報告が行われました。ゼロ日承継や親子間の葛藤、娘婿としての挑戦など、登壇者4名が語った生々しい歴史レビューの物語から、承継とは単なる資産の継承ではなく、先代の生き様や温度までも受け継ぐ営みであることを強く感じました。

経営に関する知識や技術に先立ち、「人としてのリアル」を「重荷」ではなく「未来へ飛躍するジャンプ台」と捉え、「思い込みの天井」を突き破る覚悟も伝わってきました。そのためにも、後継者が自らのスタイルを確立する場として同友会を活用し、本音で語り合うことで大きなヒントを掴む意義が示されました。さらに、未来へバトンをつなぐためには、時代に応じて理念や志を更新していくことの重要性も強く感じました。

片野貴一郎氏

（株）モスク・クリエーション／御殿場支部

※第1分科会と第4分科会感想は1月号に掲載予定です。



小和田先生を囲んで実行委員の皆さんと



約270名が一堂に会する



## 第53回青年経営者全国交流会in香川

# 『守破離』未来を背負いし経営者よ 讃岐の地で心に刻め

11月20日(木)～21日(金) JRホテルクレメント高松ほか

香川県高松市にて開催され、オンラインも含め全国から2,000名超、静岡からも18名が参加しました。

1日目の分科会では19のリアル分科会と1つのオンライン分科会が設営され、第16分科会では塚本和成氏(有)塚本商店・副代表理事)が登壇しました。分科会の内容に



分科会報告者の塚本氏(左)と座長の小野寺氏(右)

については後述で紹介いたします。懇親会や2日目の様子は別途発行される「中小企業家しんぶん」をご覧ください。

### ■第16分科会

「限りある資源で明るい未来へ人間尊重の経営で地域を照らす」

報告者…塚本和成氏

(有)塚本商店・副代表理事)

座長…小野寺敦嗣氏

(富士設計(株)・プロジェクト担当理事)

塚本氏の報告では、分科会テーマである「多様性」を切り口に自社で実践している障がい者雇用や高齢者雇用の課題や取り組みを紹介。塚本氏は何よりも前提として、多様性は障がい者や高齢者だけでなく性別や年齢、性格、考え方の違いなど、どの企業にも潜在的に存在していることを認識することが重要であると述べました。そして、経営者が一人ひとりの社員の特性を理解し、働きやすい環境を整えることが求められており、中小企業だからこそできることでありと伝えました。報告の最後には「今回の報告を通じて多様性こそ人を生かす経営そ

のものとであると再認識した。24歳で同友会に入会してから素直に学び実践してきた。今後も主体的に関わり、自身と自社と地域の成長に繋げていく」と決意を参加者に伝えました。

小野寺氏の座長まとめでは、青全交のメインテーマ「守破離」に沿って3つの視点から多様性について述べ、「それぞれのやり方で多様な人材を活かし、国民や地域と共に歩む中小企業」を一社でも増やしていくことが、地域に根差す中小企業として我々ができる最大の地域貢献であり、この志こそが、地域を照らし、活力を与え、元気にしてくれることを信じています」とまとめました。

### 〈参加者感想〉

#### ■第17分科会

「倒産寸前も愉しんだ後継者へ100年先へ幸せの連鎖を紡ぐ挑戦」

報告者…穴戸孝行氏

(太平交通(株)・広島同友会)

率直な感想として、圧倒された自分がありました。財務悪化、車庫火災、コロナ禍による売上激減、組織崩壊寸前と誰もが目を背けたくなるような状況で前を向き続ける覚悟を感じました。何かあると他責にしたりしますが、すべては自責であり、他責は未来を閉ざすと話されており、改めて経営者としての覚悟と、何事も自責として物事を捉えていこうと強く考える時間となりました。

ました。

グループ討論でも、経営の軸をテーマに討論する中で、自分の軸は何かを改めて考え、それぞれの経営者の軸を聞くことで、経営の多様性も学ぶことができました。会社を守ることに、目標を持つこと、社員や地域に目を向けることの大切さを学ぶ本場に良い機会をいただくことができました。また来年も参加し、自分自身の成長を、会社への成長に還元していきたいと思います。

田中 仁志氏

(株)ファイナンシャルネット・沼津支部)



懇親会で中同協定時総会in静岡をPR





111名参加のもと、盛大に志太支部設立40周年を祝う

# 志太支部設立40周年記念事業 災害に強い地域づくり・企業づくりを目指し、 次の50年にむけ、更なる高みへ！

11月8日(土)

小杉苑 参加者…111名

静岡同友会志太支部は設立から40周年の佳節を迎えました。40周年記念式典には来賓、行政・金融・関係機関、岩手会員、静岡会員ら111名が参加。メインテーマは、地域の防災・減災の意識を一段と高めることを目的に「災害に強い地域づくり・企業づくりのために！」を掲げました。記念式典では、大池盛一郎志太支部長、宮本浩実行委員長の挨拶後、藤枝市・焼津市・島田市よりご祝辞を賜りました。続いて会員功労者6名に感謝状が贈られました。初代支部長の杉村征郎氏（杉村精工(株)）から「同友会が変わることを恐れず新しい挑戦を！私たちは同友会理念を噛み締め未来へ歩もう」と代表して挨拶しました。

基調講演は「一社も潰さない。同友会だからこそ出来た、震災からの復興の軌跡」と題し、河野通洋氏（㈱八木澤商店・代表取締役／岩手同友会）が講演。東日本大震災の被災後、「一人も解雇しない、一社も潰さない」強い思い



地域防災と条例の描く地域の姿を議論

の下、地域の復旧・復興にむけて、企業・地域・同友会が歩んだ経験と教訓を熱く伝えました。続くパネルディスカッションは「中小企業振興基本条例を核にした生きた地域内連携とは」と題し、コーディネーターに佐藤紀雄氏（中同協専務幹事）、パネリストは引き続き河野氏と、長谷川晋三氏（しずおか焼津信用金庫お客様サポート部長）、山下敦史氏（焼津市経済部長）、松葉秀介氏（県代表理事）が登場し、地域防災と条例の描く地域の姿を議論。経営指針に災害対応を盛り込むこと、顔の見える関係づくり、地域を守るためにも会員を増やすことなどが話され、「人を生かす企業を創り、人が生きる地域を創ろう」と締め括りました。その後グループ討論では、「あなたの住んでいる地域における大規模災害に備える上での課題は何ですか？」をテーマに防災への意識を高め、地域にとってなくてはならない自社の存在価値を語り合う場となりました。懇親会では池原智彦氏（有池原商会）より、岩手同友会と志太支部との深い絆を感じられる挨拶があり、歓喜の涙の中、閉会しました。

志太支部では、50周年にむけ、自己成長できる場であること、経営指針に基づく経営で成長を続け、地域に欠かせない企業として行政機関との連携を深め、地元から頼られる団体を目指し、会員150名をめざしていきます。



河野氏による基調講演

## 県にいたる共生委員会 西部関係機関との意見交換会 すべての人々が共に生きる 社会の実現をめざして

10月30日(木) クリエイト浜松

10月は浜松市にて西部関係機関との意見交換会を開催。会員・オブザーバー・特別支援学校・障がい者就労支援機関など合わせて40名が参加しました。冒頭、中村俊哉にじいる共生委員長（㈱シングウ技研・沼津支部）から「西部地域では今回が2回目の開催となりました。交流いただき意見交換を通じて、それぞれの立場から障がい者の皆さんとの関わりを考え、実践に繋げる場としていきましょう」と挨拶がありました。

続いて、支援機関と障がい者雇用を実践している企業から、雇用の実情と支援についてそれぞれご紹介いただき、グループ討論では障がい者との関わりや課題について意見交換しました。

参加者からは「経営者として障がい者を受け入れるために何ができるか」「様々な特性があることを認めること。特性が才能になる瞬間を見極めることが大切」「立場は違えど共通した悩みや課題をもっていることが分かった」といった感想が寄せられました。



それぞれの立場から障がい者との関わりを考える



2026年  
12月・1月

DOYU CALENDAR

12月16日(火)～2026年1月15日(休)

2025年12月 17日(水)	志太忘年例会 (18:30 大井神社 宮美殿) 沼津例会 (19:00 プラサヴェルデ)
18日(木)	榛南忘年例会 (18:30 うおとも) 中遠例会 (19:00 磐田市総合健康福祉会館) 富士例会 (19:00 ロゼシアター)
19日(金)	中同協定時総会in静岡 実行委員会 (18:00 同友会事務局&ZOOM)
23日(火)	県総務財務委員会 (16:00 同友会事務局) 県組織増強委員会 (18:00 同友会事務局&ZOOM) 県例会企画委員会 (18:30 ZOOM) 県広報情報化委員会 (19:00 ZOOM)
25日(木)	県理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
27日(土)	三島忘年例会 (19:00 風土)
2026年1月 6日(火)	県青年部連絡会 (18:00 同友会事務局&ZOOM)

8日(木)	県正副代表理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
9日(金)	富士宮新年例会 (19:00 志ほ川バイパス店)
9日(金) ～10日(土)	中同協新春幹事会 (13:00 東京)
10日(土)	榛南経済人賀詞交歓会 (17:00 うおとも)
13日(火)	静岡新年例会 (19:00 ホテルグランヒルズ静岡)
14日(水)	御殿場例会 (19:00 未定)
15日(木)	伊東新年例会 (18:00 ラグーン(ダンコーエンボウル内)) 浜松例会 (19:00 浜松市市民協働センター)

《 あなたのスケジュールノートに  
必要事項をご記入ください 》



## 県広報情報化委員会主催 オープン勉強会

# AI時代に備える！体験型勉強会 経営者のためのAI活用体験会～NotebookLM実践ワークショップ



10月27日(月) 会 場：同友会事務局会議室・ZOOM  
参加者：45名(会場・ZOOM)

県広報情報化委員会主催のもと、Googleが提供する生成AIツール「NotebookLM」を活用した体験型勉強会を開催しました。講師は、広報情報化委員の但馬佑規氏(株)Machi Hub・伊東支部)。近年、AI技術は急速に進化し、業務の効率化やコスト削減など、社会的ニーズが高まりつつあります。

一方で、実際の使い方や活用の可能性については、まだ十分に理解されていないケースも少なくありません。今回の勉強会では、但馬氏より「NotebookLM」の活用方法や具体的な事例について紹介がありました。PDFや音声データなどの資料をアップロードするだけで、それらをもとに要約文章や動画を生成できる点が特徴であり、正確性が高く、ビジネスでも有効に活用できるツールであることが示されました。続いて、AIをより効果的に活用するためのプロンプト(指示)の出し方のコツを学びながら、参加者自身がツールを操作し、体感するワークも実施されました。生成待ち時間には、委員の渡邊且真氏(株)協和・静岡支部)と藤本浩氏(プリントバリュー(株)・静岡支部)によるChatGPTを活用した事例紹介も行われ、AIの多様な活用方法に触れる機会となりました。

またAI活用にあたって「過程が省略されることが多く結果だけを求める傾向に陥りやすいが、“何のために”という目的を持って主体的に使うことでより良い成果につながる」と共有されました。AI初心者の参加者も実践的に学ぶことができ、今後のビジネスの可能性が広がった勉強会となりました。

【訂正】「同友しずおか 11月号 VOL.564」2ページの加商(株)の会社情報に一部誤りがありました。  
お詫びして訂正いたします。  
誤) 〒416-0946 正) 〒417-0073